

□主な内容

【令和 6 年度離島におけるグリーンスローモビリティの活用に向けた試走・実証調査の企画を募集します】

エコモ財団では、グリーンスローモビリティを活用し、離島の環境保全と地域課題の解決に向け取り組む試走・実証調査の企画提案を募集し、採択された離島地域に対し、エコモ財団所有の車両を無償貸与します。

[https://www.ecomo.or.jp/environment/gsm/ritou\\_bosyuu.html](https://www.ecomo.or.jp/environment/gsm/ritou_bosyuu.html)

【第 16 回 ECOMO 交通バリアフリー研究・活動助成報告会を開催します】

2022 年度(2020 年度、2021 年度延長分含む)の助成対象事業について、成果報告を行う報告会を、3/1 と 3/8 の 2 日に分けて開催します。

[https://www.ecomo.or.jp/barrierfree/bfyosei/2023/bfyosei\\_2023\\_report16\\_top.html](https://www.ecomo.or.jp/barrierfree/bfyosei/2023/bfyosei_2023_report16_top.html)

□目次

1. 寄稿(1)「環境的に持続可能な交通を目指して」(第 210 回)

●バス事業者が地域に仕掛ける交通を育てるまちづくりの様子

【公立大学法人 高崎経済大学大学院 地域政策研究科 准教授 長野 博一】

2. 寄稿(2)「地方から全国に向けた情報発信！」(第 210 回)

●金沢市における大学生を対象としたモビリティ・マネジメント事業の展開

～まちなり&ふらっとバスによる交通行動の変容分析～

【株式会社 日本海コンサルタント 山村 啓一】

3. ニュース／トピックス

●地域の多様な関係者の「共創」による地域交通の維持・活性化の取組等を支援！ ～令和5年度「共創モデル実証プロジェクト」追加募集における事業選定について～【国土交通省】

●令和6年度地域共創・セクター横断型カーボンニュートラル技術開発・実証事業(環境省 R&D事業)の一次公募について【環境省】

●「鉄道脱炭素施設等実装調査」を実施する鉄軌道事業者等を募集します！【国土交通省】

- 自動車からの排出ガスをさらにクリーンにします！ ～道路運送車両の保安基準の細目を定める告示等の一部改正について～【国土交通省】
- これからのまちづくりにおける駐車場政策のあり方について議論します ～2023年度第2回「まちづくりにおける駐車場政策のあり方検討会施設デザインWG／需給マネジメントWG」の開催～【国土交通省】
- 「デジタル行財政改革中間取りまとめ」を公表【内閣官房】
- 「新たな都市交通調査」をみんなで育てる場として、「都市交通調査プラットフォーム」を設置しました【国土交通省】
- 「日越交通ソフトインフラ連携促進セミナー」を開催しました ～JASTによる初の海外セミナー開催～【国土交通省】
- 令和6年度離島におけるグリーンスローモビリティの活用に向けた試走・実証調査の企画を募集します【エコモ財団】
- 「地域公共交通確保維持改善事業及び地域公共交通計画第三者評価委員会」を開催します ～地域公共交通に関する取組等を評価し、専門家が改善に向けて助言します～【中部運輸局】
- 芸備線再構築協議会の設置について ～改正地域交通法に基づく再構築協議会制度を全国で初めて適用～【中国運輸局】
- 佐賀県内のバスをまるっと運賃無料に！「さがバスまるっとフリーDAY」の実施について【九州運輸局】
- 京都市との連携による「京都駅における移動経路の分散化及び手ぶら観光の推進」「乗合タクシーの利用促進」に関する実証事業の実施結果について（速報版）【近畿運輸局】
- 長良橋通りトランジットモール社会実験を実施します【岐阜市】
- 鳥取駅周辺再整備情報【鳥取市】
- デジタルを活用した“次世代未来都市（スマートシティ）の実現にむけた共創プロジェクト”に関する包括連携協定を締結【日立市、日立製作所】
- ジョルダン乗換案内・沖縄市モードがスタート！ ～沖縄市の観光 MaaS・DX 事業で、乗換案内スマートシティモードを提供開始～【沖縄市、ジョルダン、（一社）沖縄市観光物産振興協会、JTB 沖縄、JTB 及び JTB 総合研究所】
- 「京の冬の旅」デジタルスタンプラリーを開催します ～MaaS アプリ「WESTER」を活用し、鉄道・バスで巡る楽しい京都観光の体験を創出します！～【京都市、JR 西日本、京阪 HD、京阪電鉄、阪急電鉄、京都市観光協会】
- 都営に乗るたび、ポイントたまる！ ToKoPo 入会キャンペーンを実施します！【東京都】
- 新潟駅南北市街地一体化に資するバス交通の実現および路線バスネットワークの維持に向けた連携協定書締結について【新潟市、新潟交通】
- 民間企業と連携し自動運転バスの実証実験を実施【岩見沢市、マクニカ】
- 呉工業高等専門学校における最新技術勉強会並びに次世代モビリティ導入に向けた交通社会実験を実施【呉市、マクニカ】

- 1月10日実証運行開始 AI デマンドバス「のるーと徳島市」【徳島市】
- タクシー共同配車アプリを活用した実証実験の開始について【山口市】
- グリーンスローモビリティの実証実験について【熊本市】
- 遠隔監視システム 常滑市で実施する自動運転バスの実証実験に参画【常滑市、東海理化】
- “これからの100年”をテーマに、美しい美瑛の自然を守るための「ブルー・プロジェクト」を始動 ～EVを活用した、美しい美瑛の未来と持続可能な地域共創に向けた包括連携協定を締結～【美瑛町、日産自動車、旭川日産自動車】
- EVと再生可能エネルギーを活用した持続可能なまちづくりで連携 ～2050年脱炭素社会実現に向け包括連携協定を締結～【津市、日産自動車、三重日産自動車】
- 南房総エリアにて観光地の脱炭素化を促進するEV優遇施策を開始【千葉県、マップル、日産自動車】
- e-Paletteが鞍ヶ池公園で実証走行します【豊田市、トヨタ自動車】
- 瑞穂市と合同会社DMM.comとの連携に関する協定【瑞穂市、DMM.com】
- 空飛ぶクルマの実機展示、講演会およびワークショップ「『空飛ぶクルマ×鉄道×まちづくり』シンポジウムin NAGANO」を開催します【長野県、山梨県、JR東日本、川崎重工業、JR東日本企画、MS&AD インターリスク総研、国際経済研究所、FPV Robotics】
- 品川駅周辺エリアにおいて都市OSを活用したサービス実証で初の共創【JR東日本、NTT東日本、KDDI】
- 大阪府等による「脱炭素エキデン365」プロジェクトへの参画について【JR西日本】
- 乗換案内アプリ・スマートシティモードで開始 ～「みんなでつくる乗換案内」実証実験に参加してNFTを獲得しよう～【ジョルダン、レヴィアス】
- 鉄道による水素輸送で輸送時のCO<sub>2</sub>排出量を8割以上削減 ～「つくる、とどける」でグリーンな状態を保つ～【大林組】
- デジタル技術を活用した交通サービス導入推進を目的とした実証実験への参加のお知らせ【長大、奈良交通、住友電工システムソリューション、アイサンテクノロジー、東海理化、損害保険ジャパン、埼玉工業大学】
- オンデマンド型乗合バスを運行へ【いわくにバス】
- 「刈谷放課後子育て MaaS プロジェクト」の実証実験に参加します【名古屋鉄道、名鉄スマイルプラス】
- 実証実験としてシェア乗りサービス『京都観光シャトル』を運行 ～観光庁が「訪日外国人旅行者の受入環境整備向上に向けたICTサービス」として採択～【NearMe】
- 佐渡市で自動運転サービス導入を見据えた実証実験を開始 ～国内最長ルートを実行！2025年の自動運転レベル4実装に向けた連携第二弾～【WILLER、ティアフォー、新潟交通佐渡】
- 全国5自治体で自動運転を支援する路車協調システムの実証を開始 ～車載センサで把握困難な道路状況を路側カメラ映像から分析しローカル5Gで伝送～【NEC】

- 秦野駅前に「LUUP」のポートを設置して実証開始 ～地域パートナーとも連携し、坂道のある立地特性のなか利用データから実用性を検証します～【小田急電鉄】
- 2028年以降の国際間大規模液化CO<sub>2</sub>海上輸送の実現に向けて液化CO<sub>2</sub>輸送船の共同検討に関する覚書を締結【三菱造船、日本シッパード、三井物産、三菱商事】
- 「EKA」ブランドでモビリティ電動化事業を展開するインド PinnacleMobility 社への出資参画【三井物産、VDL】
- ニュージーランドとフィジーにおいてグリーン水素の製造・輸送・利活用に関する実証事業を開始【大林組、ハルシオンパワー、フィジーガス】
- フランスのモンペリエ、公共交通機関を無料化へ【CitiesToday】

#### 4. イベント情報

- BRT 開業記念ラッピングトレイン「ブラトレ BURATRIN」【2024/1/27】
- フィジカルインターネットシンポジウム 2024【2024/2/2】
- 乗る！撮る！触る！209系1000代満喫ツアーin 拜島【2024/2/3-4】
- 第20回全国バスマップサミット in TOKYO 江戸川【2024/2/3】
- 鉄道コンテナ利用促進セミナーin 熊本【2024/2/8】
- 令和5年度公共交通シンポジウム in 九州【2024/2/14】
- 列車に乗って、世界一周！国際トレイン【2024/2/17】
- さわやかウォーキング【2024/2/17】
- グリーン経営認証取得講習会【2024/2/20】
- 『人と多様なモビリティが共生するゆつくりを軸としたまちづくり』～オーストリア調査報告を中心に～【2024/2/21】
- 交通環境セミナー – 2050年カーボンニュートラルを見据えた物流効率化に向けてー【2024/2/29】
- 第16回 ECOMO 交通バリアフリー研究・活動助成報告会【2024/3/1、8】

#### 5. その他

- 「グリーン経営認証」に関する情報は、専用ホームページへ
- エコ通勤優良事業所を認証登録しています！
- 交通環境学習(モビリティ・マネジメント教育)メールマガジンを発行しています！
- 電動小型低速車に関する情報を掲載しています！
- 「運輸・交通と環境」を発行しています！
- 記事募集中！

---

---

1. 寄稿(1)「環境的に持続可能な交通を目指して」(第 210 回)

●バス事業者が地域に仕掛ける交通を育てるまちづくりの様子

【公立大学法人 高崎経済大学大学院 地域政策研究科 准教授 長野 博一】

私からは、十勝バス㈱さんが現在仕掛けている「大空ローカルハブ(国土交通省選定事業 十勝・帯広における共創モデル実証プロジェクト)」の様子をお届けしたいと思います。このモデル事業は、2023 年 11 月 1 日～2024 年 1 月 31 日までの実証実験期間(2 月以降も営業継続するとのこと)として帯広市大空団地にて行われており、バスの待合だけでなく、地元産の食材等の販売、カフェスペース、地域の方の居場所となる空間の提供と、多目的・多機能なスペース設置によるコミュニティ機能の創出を目的としています。

今回、十勝バス㈱の野村社長さんらに現地をご案内いただき、地域の方々との交流のお時間もいただきましたので、その様子をお伝えしたいと思います。

その前に、大空団地について簡単にご紹介します。北海道帯広市の郊外団体「大空団地」は、開発時(昭和 47 年)に約 1 万人いた人口が現在では約半数近くまで減少し、高齢化率も高い状況です。団地内で買い物ができる場所がコンビニのみ、生活交通の主体は自家用車という、各地で抱える問題と同様の状況となっています。近年、老朽化した公営住宅の建て替えや新たな宅地開発が進み、若い世代が転入するなど、新たな動きが見え始めてきたタイミングで、小学校と中学校が統合され「大空学園義務教育学校(2022 年度)」がスタートするなど、団地地区での世代の入れ替わりによる人口増の期待が持てる状況へ変化してきています。いわば、帯広市が最も力を注いでいる「目玉地区」と言っても良いのかもしれませんが。

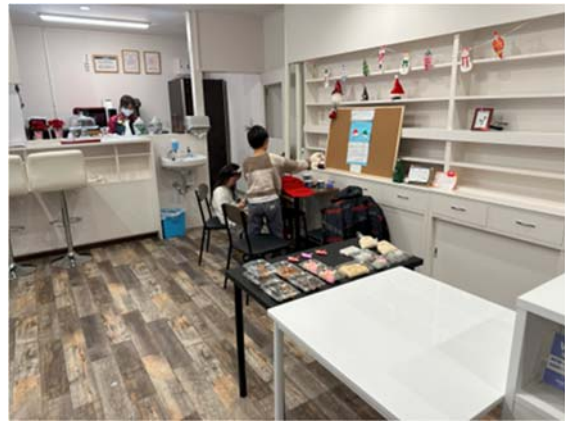
このような状況のなか、十勝バスさんではかねてより注力してきた大空団地線の強化を進めると共に、バスを中心とした交通まちづくりを民間主導で進める取り組みを強化してきました。2021 年度には路線バスが商品を運び、大空団地に到着後、店舗に変身する「マルシェバス」の実証実験を行ったほか、2022 年度にはオンデマンド交通の運行を開始するなど、地域を意識した取組を行ってきました。今回の実証実験では、地域との「共創」を促すための拠点として「大空ローカルハブ」を整備し、拠点としてターミナル機能とサードプレイス機能を有する施設を運営しています。従来のターミナルといえば、「バスを停車させる場所」としてのイメージが強いですが、この実証はターミナルの機能や役割を見直し、デマンドバスと路線バスをつなぐ結節点という機能と共に、待合、飲食、買い物などのアクティビティのほか、コミュニティ形成のためのスペースとしての市民の活用など、地域を巻き込んだ取り組みとしている点が非常にユニークです。地域の人が気軽に立ち寄ってお茶をしたり、夕方には大空学園の生徒さんらが宿題をしにきたり、コミュニティビジネスを始めた方々がスペースとして活用したりと、1 日の時間帯の中で空間配分など、さまざまな手法がこれから試されていくものと思われます。もちろん、バス利

用者にとっても寒い冬場や暑い夏場の快適な待合空間として機能する利点を享受できます。  
(著者は2021年7月30・31日、2022年2月13・14日、2023年12月25日にヒアリングと視察をさせていただきましたが、当たりまえですが夏はとても暑く冬場はとても寒かったです、みなさんそんな事はご存知だと思いますけども)

今回、現地視察と十勝バスさんへのインタビューのほかに、地域のみなさまとの懇談のお時間をいただきました。地元自治会の方々、地域で活躍されているコミュニティビジネスを手掛ける方、お子さんと一緒に来て下さった地元の方々、大空学園の校長先生・副校長先生ら、地元のキーマンの方々と、大空ローカルハブの利用の仕方、地域づくりのやりかた、この地域の将来のことなど、地域モビリティに掛け合わせて懇談させていただきました。色々な意見がでてきて、時間が足りずに次の機会へと持ち越しとなりました。よって再度訪れ、再び大空団地の皆さんとお会いしたいと思います。今回、このような機会をくださった十勝バスさん(野村社長はじめ従業員の皆さま)に改めて感謝申し上げますと共に、この大空ローカルハブを地域に溶け込むよう、継続していただきたいと願っております。

地域づくりに正解はありません、むしろ正解(みたいな解)を無理につくってしまうと、それ以外を不正解とみなして進んでしまうこともあります。人と共に地域もまた生きて・生かされていることを改めて考えてみる、そのための学びと経験「知」を地域で育ててみるからこそ、交通まちづくりには必要な事ではないでしょうか。





<参考情報>

- ・十勝バス(株)web サイト参照: <https://www.tokachibus.jp/2023/11/14/54962/>
- ・国土交通省地域交通共創モデル実証プロジェクト web サイト参照:  
<https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/transport/kyousou/>



## 2. 寄稿(2)「地方から全国に向けた情報発信！」(第 210 回)

### ●金沢市における大学生を対象としたモビリティ・マネジメント事業の展開 ～まちのり&ふらっとバスによる交通行動の変容分析～

【株式会社 日本海コンサルタント 山村 啓一】

#### <概要>

金沢市及び近郊には 20 近い大学・短大などが集積し、「学都・金沢」とも称されるが、キャンパスの多くが郊外に立地し、学生のまちなかでの活動の制約となっている。また、金沢市内の路線バスの利用者数は、北陸新幹線の金沢開業(2015.3)以降増加しているが、過去 20 年間では減少傾向となっている。一方、金沢市では公共シェアサイクル「まちのり」を展開しており、近年では市民利用の拡大がみられるが、若年層への利用促進が課題となっている。

そのような中、今回社会実験(期間:2022年10月～2023年3月)として、多くの大学生が住むのりエリアにまちのり臨時ポート 2 箇所を設置した。また金銭的な補助として、まちのり学生向け月額プラン(1,650円/月)に登録した学生を対象に、ふらっとバスのデジタル回数券(11回:1,000円分)を提供した。この取組による交通行動の変容を分析するため、アンケート調査や GPS による移動状況調査を実施するとともに、意見交換を通じて、学生目線での交通課題の把握や今後の利用促進に向けたアイデアを確認した。

#### <効果>

##### 1.新プランによるまちのり・ふらっとバス相互の利用促進

まちのり学生向け月額プランの登録者数は延べ 163 人、そのうちふらっとバス回数券を入手した学生は延べ 53 人(32.5%)となった。また、臨時ポート2箇所の貸出回数は降雪のある12-2月以外は300回/月以上であり、のべ1,500回以上利用された学生向け月額プラン利用者のみならず、近隣の住民等の需要喚起につながった。

#### <社会実験の周知広報チラシ>

**まちのり×ふらっとバス**

**1,100円もお得!**

**【学生向け月額プラン】**  
**会員募集中!**

受付期間  
2022年  
10月3日  
▼  
2023年  
3月31日

■【学生向け月額プラン】の特長  
金沢市公共シェアサイクル「まちのり」の月額プラン(1,650円/月※)と同額で、「金沢ふらっとバス」回数券11回分(1,100円相当分)も毎月受け取れる、学生限定のプランです。  
※月額基本料金。(30分を超えたと110円ずつ追加されます)

**まちのり** + **ふらっとバス**  
月額会員 ×11回分

①「まちのり」アプリから【学生向け月額プラン】に登録します。

②登録時にご入力いただいたメールアドレス宛に、「金沢ふらっとバス」の回数券の受け取り用チケットコードが発行されます※  
※登録日翌日以降に発行

③「金沢ふらっとバス」回数券をお受け取りいただけます。  
[10/23まで]「まちのり事務局※」にてチケットコードをご提示いただき、車の回数券をお渡します。 ※まちのり事務局の営業時間はご参照ください。  
[10/24以降] デジタル交通サービス「のりまっし金沢」にてチケットコードを入力します。

【期間限定】まちのりポート増設中!

お問い合せ先  
▼プラン全般に関するお問い合わせ  
金沢市役所 歩行者環境推進課  
TEL 076-226-2371  
E:kaneru@city.kanazawa.lg.jp

▼「まちのり」に関するお問い合わせ  
まちのり事務局  
TEL 076-295-1747 (受付時間 9:00~18:00)  
URL: https://www.machi-nori.jp



<臨時ポート2箇所の貸出回数の推移>



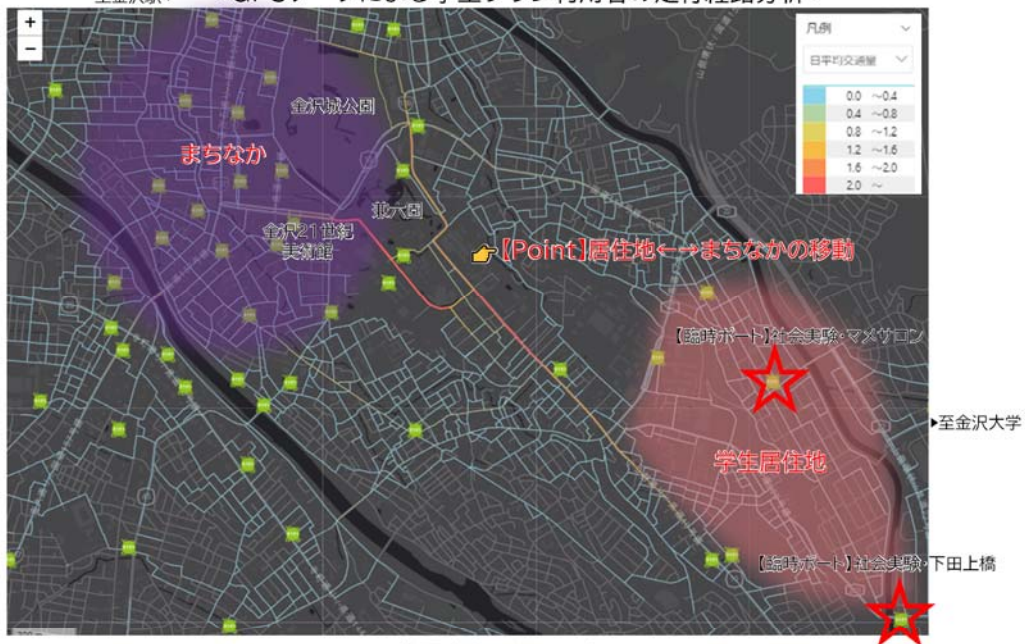
<ふらっとバス回数券の入手状況>

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
学生向け月額プラン会員数	25	32	24	25	29	28	163
新規登録	25	9	1	9	4	6	54
自動更新	0	22	22	14	21	19	98
プラン変更	0	0	1	2	3	3	9
再登録	0	1	0	0	1	0	2
ふらっとバス回数券入手	10	13	10	8	8	4	53

## 2.学生の移動回遊性の向上(利用履歴・GPS データの分析)

学生向け月額プラン利用者の行動範囲は広範にわたっていたが、特に居住地↔金沢駅・まちなかとの往来が多く、学生のまちなかへの来訪に寄与していた様子が伺える。また利用時間帯を分析すると、路線バスの運行本数が少なくなる、夜間以降の時間帯の利用が比較的多い。まちなかでの活動・アルバイト等で夜が遅くなりがちな学生の移動を、まちなかのりが補完していた様子が伺える。

至金沢駅 <GPSデータによる学生プラン利用者の走行経路分析>



<時間帯※別利用回数> ※返却時間



### 3.さらなる公共交通の利用・MM 促進のためのアイデアの抽出

「まちなり+ふらっとバス」商品を購入した大学生に対するアンケート結果では、大学キャンパス内にポートが設置された場合、「まちなりを通学に利用する」「まちなりを通学以外に利用する」と回答した学生は約9割であった。また、意見交換会でもまちなりポートの拡充を求める声が多く、料金抵抗よりも公共交通の利便性自体の向上を求める傾向が強いことがわかった。

#### <結論>

本稿で紹介した 2022 年度の社会実験を通して、シェアサイクルを活用した大学生に対する MM 促進の有効性が示唆された。また、2023 年度にはこの結果もふまえ、金沢市が次期の公共シェアサイクルのあり方の検討材料とするために、金沢大学とその門前街エリアでサービスエリア拡大実験(実施期間:2023 年 6 月～7 月)を実施した。実験の結果、当該エリアは公共交通全体の需要創出・自動車依存脱却(モビリティ・マネジメント)・まちなか活性化のいずれの観点からも「次期まちなり」の新規エリア候補としてふさわしいとの結論を得て、今後の公共シェアサイクル「まちなり」の展開を検討する際の重要な材料の一つとなっている。

#### (詳細)

<https://www4.city.kanazawa.lg.jp/soshikikarasagasu/kotsuseisakuka/gyomuannai/1/3/24852.html>

今後もこのようなシェアサイクルを含めた各交通モード間の連携・接続の強化をより一層促進し、住民・観光客そして学生が楽しく快適に移動できるまちを目指していきたい。

---

### 3. ニュース／トピックス

●地域の多様な関係者の「共創」による地域交通の維持・活性化の取組等を支援！ ～令和5年度「共創モデル実証プロジェクト」追加募集における事業選定について～【国土交通省】

国土交通省は、地域の多様な関係者の「共創」により地域公共交通の「リ・デザイン」を進める事業を支援する「共創モデル実証プロジェクト」について、追加募集を行い、地域交通の維持・活性化に取り組む「共創モデル実証運行事業」については 33 件、地域における交通やまちづくりに取り組む人材を育成する「人材育成事業」については 38 件の事業を、2023 年 8 月から 12 月にかけて随時採択してきました。

国土交通省は、2023 年 7 月に事業選定した当初採択と合わせて、「共創モデル実証運行事業」は 77 件、「人材育成事業」は 57 件の事業を支援しており、全国的な「共創」の取組の展開を図っています。

[https://www.mlit.go.jp/report/press/sogo12\\_hh\\_000346.html](https://www.mlit.go.jp/report/press/sogo12_hh_000346.html)

●令和6年度地域共創・セクター横断型カーボンニュートラル技術開発・実証事業（環境省 R&D事業）の一次公募について【環境省】

環境省は、令和 6 年度地域共創・セクター横断型カーボンニュートラル技術開発・実証事業の新規課題の一次公募を開始しました。CO<sub>2</sub> 排出量大幅削減及び地域活性化の同時達成、これらを通じた第 5 次環境基本計画に掲げる「地域循環共生圏」の構築と「パリ協定に基づく成長戦略としての長期戦略」で掲げる早期の脱炭素社会の実現に向け、将来的な気候変動対策の強化につながる CO<sub>2</sub> 排出削減効果の高い技術の開発・実証を公募します。公募実施期間は、2024 年 1 月 9 日から 2 月 7 日までです。

[https://www.env.go.jp/press/press\\_02587.html](https://www.env.go.jp/press/press_02587.html)

●「鉄道脱炭素施設等実装調査」を実施する鉄軌道事業者等を募集します！【国土交通省】

国土交通省は、鉄道分野におけるカーボンニュートラル実現に向けて、2022 年度より補助事業「鉄道脱炭素施設等実装調査」を実施しています。2022 年 8 月の「鉄道分野におけるカーボンニュートラル加速化検討会」における中間とりまとめを踏まえ、「鉄道脱炭素施設等実装調査」に対する補助制度を創設し、本事業による調査・検討を実施する鉄軌道事業者等の募集を開始しました。募集期間は、2024 年 1 月 19 日から 2 月 9 日までです。

[https://www.mlit.go.jp/report/press/tetsudo07\\_hh\\_000252.html](https://www.mlit.go.jp/report/press/tetsudo07_hh_000252.html)

●自動車からの排出ガスをさらにクリーンにします！ ～道路運送車両の保安基準の細目を定める告示等の一部改正について～【国土交通省】

国土交通省は、道路を走行する際の排出量を計測して規制されているディーゼル乗用車等の排出ガスについて、規制値を大幅に強化するなど、自動車からの排出ガスをさらにクリーン化することに取り組みます。

また、物流事業者による多様な車両運行データの取得・活用を通じて、物流ネットワークの「見える化」を促進し、物流の効率化等をさらに進めるため、運行記録計の技術基準を見直します。

[https://www.mlit.go.jp/report/press/jidosha10\\_hh\\_000297.html](https://www.mlit.go.jp/report/press/jidosha10_hh_000297.html)

●これからのまちづくりにおける駐車場政策のあり方について議論します ～2023年度第2回「まちづくりにおける駐車場政策のあり方検討会施設デザインWG／需給マネジメントWG」の開催～【国土交通省】

国土交通省は、今後の駐車場政策のあり方について、道路交通の円滑化のみならず、居心地が良く歩きたくなるまちなかづくり、土地の有効活用など、より包括的なまちづくりを見据えた検討を行うため、「まちづくりにおける駐車場政策のあり方検討会」を設置しています。この検討会の下にWGを設置し、個別の検討事項について深掘して議論しています。

第2回施設デザインWGを1月16日に開催しました。また、第2回需給マネジメントWGを1月30日に開催します。

[https://www.mlit.go.jp/report/press/toshi09\\_hh\\_000097.html](https://www.mlit.go.jp/report/press/toshi09_hh_000097.html)

●「デジタル行財政改革中間取りまとめ」を公表【内閣官房】

12月20日、第3回デジタル行財政改革会議を開催し、「デジタル行財政改革中間取りまとめ」を決定、公表しました。「教育」「交通」「介護」「子育て・児童福祉」「防災」「インバウンド・観光」「スタートアップ」の各分野の改革の現状と政府の取り組みを整理し、今後、検討を深めるべき課題なども示しました。

[https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/digital\\_gyozaikaikaku/index.html](https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/digital_gyozaikaikaku/index.html)

●「新たな都市交通調査」をみんなで育てる場として、「都市交通調査プラットフォーム」を設置しました【国土交通省】

パーソントリップ調査は、道路や鉄道などのハード整備の基礎となる調査から、都市が抱える多様な課題の解決を目指した多様性に富んだ一連の検討へと変わりつつあります。

国土交通省では、調査データの活用支援や調査支援、各地域の取り組み共有を支援し、アップデートへとつながるループを生み出す、新たな都市交通調査をみんなで育てる場として、「都市交通調査プラットフォーム」を設置しました。

<https://www.mlit.go.jp/toshi/tosiko/ptplatform.html>

●「日越交通ソフトインフラ連携促進セミナー」を開催しました ～JASTによる初の海外セミナー開催～【国土交通省】



国土交通省は、ベトナム交通運輸省との共催で、2023年12月18日にベトナム・ハノイにおいて、MaaS、AI オンデマンド交通等の交通ソフトインフラによる公共交通の高度化をテーマとした「日越交通ソフトインフラ連携促進セミナー」を開催しました。2022年9月に立ち上げた交通ソフトインフラ海外展開支援協議会(JAST)による初めての海外セミナーです。

セミナーでは、ベトナム交通運輸省等から交通課題や今後の展望について、両国企業から交通ソフトインフラに関する知見の共有を行い、その後のビジネスマッチングでは、参加者同士の関係構築や情報交換が行われました。また、12月18日午前には、現地バス事業者の協力により現場視察が行われ、多くのJAST会員企業が参加しました。

[https://www.mlit.go.jp/report/press/sogo05\\_hh\\_000335.html](https://www.mlit.go.jp/report/press/sogo05_hh_000335.html)

●令和6年度離島におけるグリーンスローモビリティの活用に向けた試走・実証調査の企画を募集します【エコモ財団】

グリーンスローモビリティは、時速20km未満で公道を走ることができる電動車を活用した小さな移動サービスで、その車両も含めた総称です。導入により、地域が抱える様々な交通の課題の解決と低炭素型交通の確立の同時達成が期待されるところであり、「環境・経済・社会の統合的向上」にも資するモビリティとして、エコモ財団では2014年の初の公道走行以降、様々な方法で普及・啓発活動が進められてきました。

離島は、海洋国家である我が国にとって、領海や排他的経済水域等の保全、海洋資源の利用、自然環境の保全などの観点から極めて重要な役割を果たすとともに、豊かな自然・文化を有しており、優れた観光・教育・スポーツの場でもあります。しかしながら、そこをとりまく環境は、著しい人口減少や高齢化の進展など、厳しい状況にあり、離島の振興は大変重要な課題となっています。

そこで、エコモ財団は、グリーンスローモビリティを活用し、離島の環境保全と地域課題の解決に向け取り組む試走・実証調査の企画提案を募集し、採択された離島地域に対し、エコモ財団所有の車両を無償貸与します。

[https://www.ecomo.or.jp/environment/gsm/ritou\\_bosyuu.html](https://www.ecomo.or.jp/environment/gsm/ritou_bosyuu.html)

●「地域公共交通確保維持改善事業及び地域公共交通計画第三者評価委員会」を開催します ～地域公共交通に関する取組等を評価し、専門家が改善に向けて助言します～  
【中部運輸局】

中部運輸局では、2月14日、15日、16日に「地域公共交通確保維持改善事業及び地域公共交通計画第三者評価委員会」をオンライン形式(Zoom)により開催します。

管内5県36自治体等(※評価対象自治体等は別紙)におけるバス、デマンドタクシーなどの地域公共交通に関する取組等について、評価委員が専門的見地から評価を行うとともに、今後の取組の改善に向けて助言します。

<https://www.tb.mlit.go.jp/chubu/tsukuro/hyoka/pdf/jiko/R5/oshirase.pdf>

●芸備線再構築協議会の設置について ～改正地域交通法に基づく再構築協議会制度を全国で初めて適用～【中国運輸局】

中国運輸局は、2023年10月3日に西日本旅客鉄道株式会社から行われた地域交通法第29条の3第1項に基づく再構築協議会の設置に関する要請を受け、関係する地方公共団体への意見聴取を実施した上で、2024年1月12日に芸備線再構築協議会を設置しました。再構築協議会の主な構成員は、中国運輸局、岡山県、広島県、新見市、庄原市、三次市、広島市、JR西日本などです。

<https://www.tb.mlit.go.jp/chugoku/content/000314897.pdf>

●佐賀県内のバスをまるっと運賃無料に！「さがバスまるっとフリーDAY」の実施について【九州運輸局】

2024年1月の水曜日・日曜日に佐賀県で実施される『さがバスまるっとフリーDAY』は、県内で運行する全ての路線バス会社(7社)とコミュニティバス等の運行事業者がタッグを組み、県内のどこまで行っても運賃が無料になる取組です。

どこからバスに乗っても、佐賀県内で降車すると運賃が無料になります。

[https://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/osirase/00001\\_00447.html](https://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/osirase/00001_00447.html)

●京都市との連携による「京都駅における移動経路の分散化及び手ぶら観光の推進」「乗合タクシーの利用促進」に関する実証事業の実施結果について(速報版)【近畿運輸局】

近畿運輸局は、京都市・民間事業者との連携により京都駅にて実施した、「期間限定案内所の開設による移動経路の分散化、臨時手荷物預かり所の開設による手ぶら観光の推進」及び「乗合タクシーの利用促進」に関する実証事業の実施結果(速報版)を発表しました。詳細な結果については、アンケート調査を基に課題・改善点の抽出や効果検証を行い、2023年度末を目途に改めて発表する予定です。

<https://www.tb.mlit.go.jp/kinki/content/000313983.pdf>

●長良橋通りトランジットモール社会実験を実施します【岐阜市】

岐阜市では、中心市街地の道路空間をより活かした空間、魅力的な空間として活用できるように、市民や関係者と連携して、「居心地が良く歩きたくなるまちなか」づくりを目指しています。2023年11月に実施した道路空間利活用社会実験「金華橋ストリートパークライン」に続き、長良橋通りの名鉄岐阜駅前一般車両を規制して、バスとタクシーなど公共交通のみが通行できる、トランジットモール社会実験を実施しています。実施期間は、2024年1月24日から1月28日までです。

社会実験により、トランジットモール化に伴う交通影響などを調査・検証し、道路空間を活用したまちづくりに取り組めます。

<https://www.city.gifu.lg.jp/kurashi/douro/1022562/1023888.html>



●鳥取駅周辺再整備情報【鳥取市】

鳥取市では、鳥取駅周辺の再生に向けた取組を推進しており、2023 年度は、鳥取駅周辺の整備方針や整備イメージをまとめた「鳥取駅周辺再生基本計画」を策定することとしています。このため、交通やまちづくりの分野の専門家をはじめ、交通事業者、商工会議所などの関係者、国・県・市等で構成する「鳥取駅周辺リ・デザイン会議」を設立しました。1 月 16 日に第 3 回会議が開催され、鳥取駅周辺再整備のビジョン・位置づけや、鳥取駅周辺再整備の基本方針・イメージについて意見交換が行われました。

<https://www.city.tottori.lg.jp/www/contents/1692319123684/index.html>

●デジタルを活用した“次世代未来都市(スマートシティ)の実現にむけた共創プロジェクト”に関する包括連携協定を締結【日立市、日立製作所】

日立市と、株式会社日立製作所は、このたび、「デジタルを活用した次世代未来都市(スマートシティ)計画に向けた包括連携協定」を締結しました。この協定にもとづき、両者は、デジタルを活用しながら、①グリーン産業都市、②デジタル医療・介護、③公共交通のスマート化を軸として、日立市の活性化と住民の安心・安全な暮らしを実現していくために共創プロジェクトを推進していきます。

<https://www.hitachi.co.jp/New/cnews/month/2023/12/1221.html>

●ジョルダン乗換案内・沖縄市モードがスタート！ ～沖縄市の観光 MaaS・DX 事業で、乗換案内スマートシティモードを提供開始～【沖縄市、ジョルダン、(一社)沖縄市観光物産振興協会、JTB 沖縄、JTB 及び JTB 総合研究所】

ジョルダン株式会社は、沖縄市、(一社)沖縄市観光物産振興協会、株式会社 JTB 沖縄、株式会社 JTB 及び株式会社 JTB 総合研究所とともに、2023 年度沖縄市観光 MaaS システム運用業務において、市内周遊観光を目的とした、「沖縄市モード」の提供を開始しました。

沖縄市モードとは、乗換案内アプリ内に開発した、着地型共通インターフェース「スマートシティモード」を沖縄市専用に提供したもので、沖縄市の観光情報などと二次交通や経路検索サービスを一元化し、周遊観光の促進や観光 DX に取り組みます。実施期間は、2024 年 1 月 26 日から 2 月 28 日までです。

[https://www.jorudan.co.jp/company/data/press/2024/20240116\\_okinawa-smartcity.html](https://www.jorudan.co.jp/company/data/press/2024/20240116_okinawa-smartcity.html)

●「京の冬の旅」デジタルスタンプラリーを開催します ～MaaS アプリ「WESTER」を活用し、鉄道・バスで巡る楽しい京都観光の体験を創出します！～【京都市、JR 西日本、京阪 HD、京阪電鉄、阪急電鉄、京都市観光協会】

西日本旅客鉄道株式会社、京阪 HD 株式会社、京阪電気鉄道株式会社、阪急電鉄株式会社、京都市、(公財)京都市観光協会は、京都観光の回遊性向上を図るため、

2022 年度に引き続き、JR 西日本の MaaS アプリ「WESTER」を活用した、「京の冬の旅」デジタルスタンプラリーを開催します。

関西の複数の鉄道事業者が連携、更に官民が一体となって、MaaS アプリを活用し、第 58 回「京の冬の旅」の「非公開文化財特別公開」箇所をはじめとした観光地や寺社などを公共交通で快適・便利に周遊できるようにします。

[https://www.westjr.co.jp/press/article/items/231225\\_00\\_press\\_kyonohuyunotabi.pdf](https://www.westjr.co.jp/press/article/items/231225_00_press_kyonohuyunotabi.pdf)

●都営に乗るたび、ポイントたまる！ ToKoPo 入会キャンペーンを実施します！【東京都】

都営交通の会員制ポイントサービス ToKoPo は、都営地下鉄、都営バス、東京さくらトラム(都電荒川線)及び日暮里・舎人ライナーに乗るたびにポイントがたまるサービスです。東京都交通局は、2024 年 1 月 15 日から 4 月 30 日までの期間、ToKoPo 入会キャンペーンを実施しています。

<https://www.metro.tokyo.lg.jp/tosei/hodohappyo/press/2024/01/12/06.html>

●新潟駅南北市街地一体化に資するバス交通の実現および路線バスネットワークの維持に向けた連携協定書締結について【新潟市、新潟交通】

新潟市と新潟交通株式会社は、バス交通に関する連携協定を 2023 年 12 月 22 日に締結しました。

新たな協定は、まちづくりの新たな転換期である新潟駅バスターミナルの供用を契機とした本市のまちづくりの取り組みに対し、バスサービスが連携することにより、市民や来訪者にとってより一層わかりやすく利用しやすいバスサービスを提供するとともに、2024 年問題などにより直面するバスサービスの担い手不足に対応していくことなどを盛り込んだ協定となります。

この協定をもとに、本市と新潟交通株式会社が、路線バスのネットワークを最大限機能させるよう連携して取り組みます。

<https://www.city.niigata.lg.jp/kurashi/doro/kotsu/renkeikyotei.html>

●民間企業と連携し自動運転バスの実証実験を実施【岩見沢市、マクニカ】

岩見沢市は、株式会社マクニカとの連携による自動運転 EV バスの公道実証実験を実施しました。持続的な交通体系を構築することや新たな交通モードの展開に繋げることを目的としており、自動運転 EV バスが公共交通手段の一つとして機能するかの検証や、2023 年 4 月施行の改正道路交通法によって認可された「特定条件下における完全自動運転」を見据えた、遅延ない通信環境による遠隔監視に関する検証などが行われました。また、北村赤川鉱山施設で実証している、太陽光と温泉付随ガスから発電した電力の活用や、発電した電力を EV バスの充電に利用することで得られる CO<sub>2</sub>排出量削減効果や低炭素化に関する検証も実施されました。

<https://www.digital-gyosei.com/post/2023-12-27-news-iwamizawa-evbus/>

●呉工業高等専門学校における最新技術勉強会並びに次世代モビリティ導入に向けた交通社会実験を実施【呉市、マクニカ】

呉市と株式会社マクニカは、2023年3月に締結した「次世代を担う若者のチャレンジ支援等に向けた包括連携協定」の取組の一環として、呉工業高等専門学校との最新技術勉強会並びに、その技術を体現する次世代モビリティ導入に向けた交通社会実験を実施しました。地元商店街との連携により、地域の活性化、新たな人の流れの創出を目指しています。

<https://www.macnica.co.jp/public-relations/news/2023/144633/>

●1月10日実証運行開始 AI デマンドバス「のるーと徳島市」【徳島市】

徳島市では、中心市街地エリア(ひょうたん島とその周辺)で、スマートフォンアプリや電話で予約して利用するAIデマンドバスの実証運行を行っています。実施期間は、2024年1月10日から3月31日までです。

<https://www.city.tokushima.tokushimajp/smph/kurashi/koutsu/kotsu/aiod/aiodb.html#cms5A14F>

●タクシー共同配車アプリを活用した実証実験の開始について【山口市】

山口市は、市民のタクシー利用の利便性向上、タクシー事業者の効率的な配車を行うことを目的に、タクシー共同配車アプリ「やまぐち TAXI アプリ」を活用した実証実験を開始しました。実施期間は、1月15日から3月31日までです。

デジタル技術による地域の社会課題解決に向け、山口県内をフィールドに実証・実装事業を行い、デジタル実装のモデルとなる優良事例の創出を目指し事業を進めている県事業の「やまぐちデジタル実装推進事業」により実施するものです。

タクシー利用者の配車待ち時間の縮小が期待できるほか、限られた供給台数のタクシーの運用効率向上も期待できます。

<https://www.city.yamaguchi.lg.jp/uploaded/attachment/91578.pdf>

●グリーンスローモビリティの実証実験について【熊本市】

熊本市は、中心市街地での回遊性向上や賑わいを創出するとともに、熊本電鉄との結節強化や高齢者の方など長距離移動が困難な方の移動支援等のため、グリーンスローモビリティを運行する実証実験を実施しています。実施期間は、2024年1月13日から3月12日までです。

[https://www.city.kumamoto.jp/hpkiji/pub/detail.aspx?c\\_id=5&type=top&id=52596](https://www.city.kumamoto.jp/hpkiji/pub/detail.aspx?c_id=5&type=top&id=52596)

●遠隔監視システム 常滑市で実施する自動運転バスの実証実験に参画【常滑市、東海理化】

株式会社東海理化は、国土交通省の「地域公共交通確保維持改善事業費補助金」に採択された常滑市における、自動運転技術を活用した持続可能な移動サービスを構築することを目的とした自動運転バス実証実験に参画しました。

<https://www.tokai-rika.co.jp/topics/2023/240110.pdf>

●“これからの 100 年”をテーマに、美しい美瑛の自然を守るための「ブルー・プロジェクト」を始動 ～EV を活用した、美しい美瑛の未来と持続可能な地域共創に向けた包括連携協定を締結～【美瑛町、日産自動車、旭川日産自動車】

美瑛町と、日産自動車株式会社、旭川日産自動車株式会社の 3 者は、1 月 11 日、美瑛の豊かな自然を守り、更なる美しい美瑛の未来に向けて EV を活用していく、「EV を活用した美しい美瑛の未来と持続可能な地域共創に向けた包括連携協定」を締結し、“100 年後の美しい美瑛の未来”を描きながら、様々なアクションを創出する「ブルー・プロジェクト」を始動しました。

<https://global.nissannews.com/ja-JP/releases/240111-01-j>

●EV と再生可能エネルギーを活用した持続可能なまちづくりで連携 ～2050 年脱炭素社会実現に向け包括連携協定を締結～【津市、日産自動車、三重日産自動車】

津市と、日産自動車株式会社、三重日産自動車株式会社の 3 者は、1 月 16 日、「EV 及び再生可能エネルギーを活用した持続可能なまちづくりに関する包括連携協定」を締結しました。

<https://global.nissannews.com/ja-JP/releases/240116-01-j>

●南房総エリアにて観光地の脱炭素化を促進する EV 優遇施策を開始【千葉県、マップル、日産自動車】

千葉県、株式会社マップル、および日産自動車株式会社は、環境に配慮した EV で南房総エリアの宿泊施設や飲食店、レジャー施設等に訪れた際に受けられる EV 優遇施策を 1 月 11 日より開始しました。

日産自動車株式会社は、2023 年 5 月に千葉県と「包括連携協定」を締結し、EV を活用し環境保全を図りながら地域社会・経済の活性化を通じ持続可能なまちづくりを目指し、県内の販売会社である千葉日産自動車株式会社、株式会社日産サテオ千葉、日産プリンス千葉販売株式会社と共に、施策の PR を行っています。

<https://global.nissannews.com/ja-JP/releases/240111-02-j>

●e-Palette が鞍ヶ池公園で実証走行します【豊田市、トヨタ自動車】

1 月 13 日、14 日、20 日、21 日の 4 日間、トヨタ自動車株式会社が開発中の EV「e-Palette」を鞍ヶ池公園のパークトレイン用車両として走行させる実証実験を実施しました。自治体が主体となって、e-Palette に乗客を乗せた走行実証を行うことは、全国で初めての試みです。

[http://toyota.co.jp/sumogaru/?news=%E5%85%B6%E3%80%80%E3%81%84%E3%81%87%E3%81%8A%E3%81%8C%E3%81%8E%E3%81%90%E3%81%92%E3%81%94%E3%81%96%E3%81%98%E3%81%9A%E3%81%9C%E3%81%9E%E3%81%A0%E3%81%A2%E3%81%A4%E3%81%A6%E3%81%A8%E3%81%AA%E3%81%AC%E3%81%AE%E3%81%B0%E3%81%B2%E3%81%B4%E3%81%B6%E3%81%B8%E3%81%BA%E3%81%BC%E3%81%BE](http://toyota.co.jp/sumogaru/?news=%E5%85%B6%E3%80%80%E3%81%84%E3%81%87%E3%81%8A%E3%81%8C%E3%81%8E%E3%81%90%E3%81%92%E3%81%94%E3%81%96%E3%81%98%E3%81%9A%E3%81%9C%E3%81%9E%E3%81%A0%E3%81%A2%E3%81%A4%E3%81%A6%E3%81%A8%E3%81%AA%E3%81%AC%E3%81%AE%E3%81%B0%E3%81%B2%E3%81%B4%E3%81%B6%E3%81%B8%E3%81%BA%E3%81%BC%E3%81%BE%E3%81%B0%E3%81%B2%E3%81%B4%E3%81%B6%E3%81%B8%E3%81%BA%E3%81%BC%E3%81%BE)

●瑞穂市と合同会社 DMM.comとの連携に関する協定【瑞穂市、DMM.com】

瑞穂市と合同会社 DMM.com は、2023 年 12 月 27 日、更なる相互の発展のため、連携・協力関係を構築することに合意し、協定を締結しました。瑞穂市の地域課題の解決に向けて、相互の知見や資産などを生かし、EV 充電インフラ整備を軸とした脱炭素対策に関して協力することで、市民生活の利便性を向上させ、市域の経済循環につなげていくことを目的としています。

<https://www.city.mizuho.lg.jp/13034.htm>

●空飛ぶクルマの実機展示、講演会およびワークショップ「『空飛ぶクルマ×鉄道×まちづくり』シンポジウム in NAGANO」を開催します【長野県、山梨県、JR 東日本、川崎重工業、JR 東日本企画、MS&AD インターリスク総研、国際経済研究所、FPV Robotics】

東日本旅客鉄道株式会社、川崎重工業株式会社、株式会社ジェイアール東日本企画、MS&AD インターリスク総研株式会社、株式会社国際経済研究所、FPV Robotics 株式会社、長野県、山梨県は、「駅と空をむすぶ『空飛ぶクルマ』の活用」をテーマに、「空飛ぶクルマ」を用いた新しい移動体験・価値の提供に取り組んでいます。

観光に関わる新たな体験・価値提供の実現を目指し、長野県内で「空飛ぶクルマ」活用の可能性を検証するため、ヘリコプターを用いた実証実験などを行いました。

2024 年 1 月 24 日には、「長野市オリンピック記念アリーナ」で空飛ぶクルマの実機展示が行われ、これまで数多くのまちづくりを手掛けてきた建築設計事務所「オンデザインパートナーズ」の代表である西田司氏を招いた講演会およびワークショップが開催されました。

[https://www.jreast.co.jp/press/2023/20240116\\_ho01.pdf](https://www.jreast.co.jp/press/2023/20240116_ho01.pdf)

●品川駅周辺エリアにおいて都市 OS を活用したサービス実証で初の共創【JR 東日本、NTT 東日本、KDDI】

東日本旅客鉄道株式会社および東日本電信電話株式会社、KDDI 株式会社の 3 社は、東京都データ連携・活用促進プロジェクトの採択を受け、都市 OS を活用した新たなサービス提供の実証に向けた協定を 2023 年 12 月 1 日に締結しました。

本実証では、非常時および平時における混雑緩和を目的に、高輪ゲートウェイ駅と品川港南エリアで鉄道運行データと人流データを活用した案内誘導サービスを検証し、品川駅周辺エリアにおけるエキマチ一体の新たなスマートシティモデルの実装を目指します。

[https://www.jreast.co.jp/press/2023/20231226\\_ho01.pdf](https://www.jreast.co.jp/press/2023/20231226_ho01.pdf)

●大阪府等による「脱炭素エキデン 365」プロジェクトへの参画について【JR 西日本】

西日本旅客鉄道株式会社は、大阪府と株式会社スタジオスポビーによる、大阪府民の脱炭素に向けた意識改革と行動変容の促進を図ることを目的とした「脱炭素エキデン 365」プロジェクトに参画します。



「JR 西日本グループ長期ビジョン 2032・中期経営計画 2025」において「実現したい未来」のビジョンに掲げる「安全、安心で、人と地球にやさしい交通」および「持続可能な社会」の実現に向け、環境をはじめとするサステナビリティの取組を一層推進していきます。

[https://www.westjr.co.jp/press/article/items/231225\\_00\\_press\\_datsutanso.pdf](https://www.westjr.co.jp/press/article/items/231225_00_press_datsutanso.pdf)

●乗換案内アプリ・スマートシティモードで開始 ～「みんなで作る乗換案内」実証実験に参加して NFT を獲得しよう～【ジョルダン、レヴィアス】

ジョルダン株式会社とレヴィアス株式会社は、1 月 15 日より、「乗換案内」アプリで情報提供を募り、その情報を利活用する「みんなで作る乗換案内」として、参加型プロジェクト「Jorudan Research&Discovery」の実証実験を開始しました。電車を利用する人々が待ち時間などを利用して、調査を行った駅の情報や訪れた先で発見したレストランやカフェ、観光スポットなどの情報をジョルダンに提供し、そのインセンティブとして NFT を抽選で獲得できる、参加報酬型のプロジェクトです。NFT はレヴィアスが開発した Web3.0 プラットフォームである ANICANA(アニカナ)上で生成され、得られた NFT を売却することで日本円に換えることができます。

[https://www.jorudan.co.jp/company/data/press/2024/20240115\\_jrd.html](https://www.jorudan.co.jp/company/data/press/2024/20240115_jrd.html)

●鉄道による水素輸送で輸送時の CO<sub>2</sub> 排出量を 8 割以上削減 ～「つくる、とどける」でグリーンな状態を保つ～【大林組】

株式会社大林組は、九重町で製造されたグリーン水素の輸送手段として鉄道を利用し、従来のトラックによる輸送に比べ、輸送時の CO<sub>2</sub> 排出量を 82%削減しました。鉄道による水素輸送は、国内初の取組です。

再生可能エネルギーにより製造されるグリーン水素は、製造時に CO<sub>2</sub> を排出しないという利点がある一方、長距離輸送時の CO<sub>2</sub> 排出量を削減する輸送手段を検討する必要がありました。そこで、大林組は、日本貨物鉄道株式会社、全国通運株式会社および江藤産業株式会社の協力のもと、輸送経路の大半をトラックから鉄道に切り替えるモーダルシフトによって 1 回の輸送にかかる CO<sub>2</sub> 排出量を 0.347t から 0.062t に 8 割以上の削減を達成しました。

[https://www.obayashi.co.jp/news/detail/news20240115\\_1.html](https://www.obayashi.co.jp/news/detail/news20240115_1.html)

●デジタル技術を活用した交通サービス導入推進を目的とした実証実験への参加のお知らせ【長大、奈良交通、住友電工システムソリューション、アイサンテクノロジー、東海理化、損害保険ジャパン、埼玉工業大学】

株式会社長大、奈良交通株式会社、住友電工システムソリューション株式会社、アイサンテクノロジー株式会社、株式会社東海理化、損害保険ジャパン株式会社、埼玉工業大学は、自動運転など新たな公共交通の利用促進策等の導入を想定し、それらを実装する上での技術面・運用面の具体的な課題や、公共交通の維持・向上に向けた検討材料を抽出するため、明日香村および三郷町で実施される次世代のデジタル技術を活用した交通サ



ーバスに関する実証実験に参加します。実験期間は、2024年2月8日から2月18日までで、埼玉工業大学が開発した自動運転バスが走行します。

<https://www.sit.ac.jp/media/202301164.pdf>

●オンデマンド型乗合バスを運行へ【いわくにバス】

いわくにバス株式会社は、株式会社 REA との協力で、予約制の乗合バスを 2023 年 10 月 2 日から運行しています。

いわくにバスは、AI 利用によるオンデマンドバスの運行により、市民の足としての役割を全うしつつ、効率的な運行で経営負担を軽減することを目指しています。クラウド型の AI 自動ルート作成システム「Noruuu」を利用しており、利用者はアプリから簡単にバスの予約ができ、予約を受けた停留所のみを結んで自動的に最適なルートが AI が判断して運行する仕組みです。

<https://www.digital-gyosei.com/post/2024-01-03-news-iwakuni-bus/>

●「刈谷放課後子育て MaaS プロジェクト」の実証実験に参加します【名古屋鉄道、名鉄スマイルプラス】

名鉄スマイルプラスは、刈谷市をフィールドとした実証プロジェクトである「刈谷スマートシティ」の取組の一環として、習い事への送迎交通サービスと学校外教育サービスを統合して提供する「刈谷放課後子育て MaaS プロジェクト」の実証実験に参加しました。実施期間は、2024 年 1 月 15 日から 2 月 16 日までです。

刈谷市をフィールドとした実証プロジェクト「刈谷スマートシティ」の取組の一環として実施しており、「学校外教育拠点(つながりステーション)」と「子ども相乗りタクシー」のサービスを統合して提供することで、保護者の送迎負担軽減と質の高い放課後教育の提供を目指します。

[https://meitetsu-sp.co.jp/wp-content/uploads/2024/01/20240109\\_kariya\\_MaaS.pdf](https://meitetsu-sp.co.jp/wp-content/uploads/2024/01/20240109_kariya_MaaS.pdf)

●実証実験としてシェア乗りサービス『京都観光シャトル』を運行 ～観光庁が「訪日外国人旅行者の受入環境整備向上に向けた ICT サービス」として採択～【NearMe】

株式会社 NearMe は、実証実験として京都駅以北のエリアを対象としたシェア乗りサービス『京都観光シャトル』を運行しています。運行期間は、2024 年 1 月 31 日までです。

民間の知恵を取り入れた都市の成長戦略の推進に取り組む京都市の協力を経て、観光庁の「令和 5 年度訪日外国人旅行者の受入環境整備向上等に向けた観光現場における ICT サービス等利活用促進事業」に採択されたサービスです。

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000115.000031733.html>

●佐渡市で自動運転サービス導入を見据えた実証実験を開始 ～国内最長ルートを運行！2025年の自動運転レベル4実装に向けた連携第二弾～【WILLER、ティアフォー、新潟交通佐渡】

WILLER 株式会社と株式会社ティアフォーは、新潟交通佐渡株式会社と連携し、佐渡市相川エリアにおいて、自動運転サービス導入を見据えた実証実験を実施しました。

佐渡市では、住民や観光客等の地域内での移動手段確保が課題になっており、2022 年度には自動運転の導入を視野に入れた地域内交通に関する調査を実施していました。2023 年度は、きらりうむ佐渡から岩谷口までの区間で、自動運転車両が運行されました。

[https://www.willer.co.jp/news/press/2024/0111\\_5647](https://www.willer.co.jp/news/press/2024/0111_5647)

●全国 5 自治体で自動運転を支援する路車協調システムの実証を開始 ～車載センサで把握困難な道路状況を路側カメラ映像から分析しローカル 5G で伝送～【NEC】

日本電気株式会社は、国土交通省道路局の公募「自動運転実証調査事業と連携した路車協調システム実証実験」に基づき、つくば市、渋川市、佐渡市、小松市、鳥取市の 5 自治体で、ローカル 5G や MEC、路側に設置した 4K カメラを組み合わせる自動運転を支援する路車協調システムの実証を 2024 年 1 月中旬から開始しました。

本実証では「死角が多い交差点での右折」や「すれ違いが困難なトンネル」など、車載センサのみでは道路状況の把握が困難なケースを想定して、路車協調システムの技術的な検証を行います。

[https://jpn.nec.com/press/202401/20240116\\_01.html](https://jpn.nec.com/press/202401/20240116_01.html)

●秦野駅前に「LUUP」のポートを設置して実証開始 ～地域パートナーとも連携し、坂道のある立地特性のなか利用データから実用性を検証します～【小田急電鉄】

小田急電鉄株式会社は、観光エリア内での移動手段の選択肢を増やし、回遊性を向上させるために参画している「鉄道横断型社会実装コンソーシアム JTOS」の取組として、株式会社ココハダ LAB と連携しながら、2024 年 1 月 22 日から 3 月 31 日まで、秦野駅北口に EV キックボードのシェアリングサービス「LUUP」のポートを設置し秦野市内での実証実験に取り組んでいます。

<https://www.odakyu.jp/news/jl4d7l00000019yy-att/jl4d7l00000019z5.pdf>

●2028 年以降の国際間大規模液化 CO<sub>2</sub> 海上輸送の実現に向けて液化 CO<sub>2</sub> 輸送船の共同検討に関する覚書を締結【三菱造船、日本シップヤード、三井物産、三菱商事】

三菱重工業グループの三菱造船株式会社および今治造船株式会社とジャパンマリユニテッド株式会社の共同営業設計会社である日本シップヤード株式会社は、三井物産株式会社ならびに三菱商事株式会社とともに、CCS を対象とした 2028 年以降の国際間大規模液化 CO<sub>2</sub> 海上輸送の実現に向けて、液化 CO<sub>2</sub> 輸送船の共同検討に関する覚書を締結しました。日本政府が目指す将来の CCS 事業本格稼働開始への適用を目指します。

<https://www.mhi.com/jp/news/231227.html>

●「EKA」ブランドでモビリティ電動化事業を展開するインド PinnacleMobility 社への出資参画【三井物産、VDL】

三井物産株式会社は、オランダ大手 EV バスメーカーの VDL と共に、インドにおいて EKA のブランドで EV バス・EV 小型商用車製造販売事業を展開している Pinnacle Mobility Solutions Private Limited へ出資参画しました。

インド政府は深刻な大気汚染問題への対策として積極的な EV 普及政策を推進しており、2030 年までに商用車の 70%、乗用車の 30%、バスの 40%、二輪車と三輪車の 80%の EV 化を掲げています。Pinnacle Mobility は 2030 年までに EV 化 100%を掲げる公共サービス車両（路線バス、ごみ収集車等）や大都市で需要拡大が見込まれる e-commerce のラストマイル物流に着目し、EV バス及び EV 小型商用車の製造販売事業を拡大していく予定です。

[https://www.mitsui.com/jp/ja/release/2023/1248078\\_13866.html](https://www.mitsui.com/jp/ja/release/2023/1248078_13866.html)

●ニュージーランドとフィジーにおいてグリーン水素の製造・輸送・利活用に関する実証事業を開始【大林組、ハルシオンパワー、フィジーガス】

株式会社大林組は、ニュージーランドの大林グループ Halcyon Power Limited およびフィジー共和国のエネルギー供給事業者 Fiji Gas Pte Limited と共同で、ニュージーランドおよびフィジー共和国におけるグリーン水素の製造・輸送・利活用に関する実証事業を開始します。環境省が公募した「令和 4 年度二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金（二国間クレジット制度資金支援事業のうち水素製造・利活用第三国連携事業）」として採択されたものです。

実証事業では、(1)ハルシオンパワーが NZ のタウポに保有する水素製造プラントで地熱発電由来の電気によりグリーン水素を製造し、(2)その水素をオークランド港からフィジーのラウトカ港まで海上輸送します。そして、(3)その水素を使い、フィジーガスの LPG 貯蔵施設に据え付けられた水素とディーゼルの混焼発電機で発電し、同施設内電力として利活用します。

大林組は、実証事業の代表事業者としてプロジェクト全体の統括やフィジーでの現地調査、グリーン水素の海上輸送、フィジーガスの水素混焼発電機導入のサポートなどを行います。一方、共同事業者のハルシオンパワーはグリーン水素の製造と供給を、フィジーガスは実証期間中の混焼発電機の運転・維持管理を行います。

[https://www.obayashi.co.jp/news/detail/news20231222\\_1.html](https://www.obayashi.co.jp/news/detail/news20231222_1.html)

●フランスのモンペリエ、公共交通機関を無料化へ【CitiesToday】

モンペリエは 12 月 21 日から住民の運賃を廃止し、公共交通機関を無料にしました。

CO<sub>2</sub> 排出量を削減しアクセスを改善することが目的で、地元住民は市内のバスとトラムのネットワークを横断するフリーパスを利用できるようになります。

<https://cities-today.com/montpellier-to-make-public-transport-free/>

---

#### 4. イベント情報

●BRT 開業記念ラッピングトレイン「ブラトレ BURATRIN」

日時:2024 年 1 月 27 日(土)

場所:日田彦山線(直方車両センター発)

主催:九州旅客鉄道(株)

[https://www.jrkyushu.co.jp/news/\\_icsFiles/afieldfile/2023/12/25/20231225\\_brt\\_train.pdf](https://www.jrkyushu.co.jp/news/_icsFiles/afieldfile/2023/12/25/20231225_brt_train.pdf)

●フィジカルインターネットシンポジウム 2024

日時:2024 年 2 月 2 日(金) 14:00~17:00

場所:ハイブリッド開催(東京国際フォーラムホール D7+オンライン配信)

主催:(一社)フィジカルインターネットセンター

[https://j-pic.or.jp/sip-service/4-smart\\_logistics\\_service/symposium2024/](https://j-pic.or.jp/sip-service/4-smart_logistics_service/symposium2024/)

●乗る!撮る!触る!209系1000代満喫ツアーin 拝島

日時:2024 年 2 月 3 日(土)・4 日(日) 各日 2 回開催

第 1 回 9:20~12:10

第 2 回 11:55~14:45

場所:拝島駅電留線(最寄駅:拝島駅)

主催:東日本旅客鉄道(株)八王子支社

[https://www.jreast.co.jp/press/2023/hachioji/20240110\\_hc01.pdf](https://www.jreast.co.jp/press/2023/hachioji/20240110_hc01.pdf)

●第 20 回全国バスマップサミット in TOKYO 江戸川

日時:2024 年 2 月 3 日(土) 13:00~16:00

場所:江戸川区総合文化センター3 階研修室

主催:全国バスマップサミット実行委員会

<https://www.rosenzu.com/busmap/>

●鉄道コンテナ利用促進セミナーin 熊本

日時:2024 年 2 月 8 日(木) 13:30~17:00

場所:日本貨物鉄道株式会社(JR 貨物)熊本駅

主催:国土交通省九州運輸局

<https://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/content/000315252.pdf>

●令和 5 年度公共交通シンポジウム in 九州

日時:2024 年 2 月 14 日(水) 13:00~17:05

場所:ハイブリッド開催(TKP ガーデンシティ博多新幹線ロプレミアムホール+オンライン配信)

主催：国土交通省九州運輸局、国土交通省九州地方整備局、国土交通省総合政策局、(公社)日本都市計画学会九州支部

[https://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/press/00001\\_00830.html](https://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/press/00001_00830.html)

●列車に乗って、世界一周！国際ナショナルトレイン

日時：2024年2月17日(土)

場所：上野駅～小山駅(貸切列車)

主催：(株)JR東日本びゅうツーリズム&セールス

[https://www.jrview-travel.com/reserve/travelItem/detail?genteiCd=2&courseNo=23B0296&utm\\_source=JRSUIntlTrain&utm\\_medium=qr&utm\\_campaign=JRSUIntlTrain\\_qr\\_B0296](https://www.jrview-travel.com/reserve/travelItem/detail?genteiCd=2&courseNo=23B0296&utm_source=JRSUIntlTrain&utm_medium=qr&utm_campaign=JRSUIntlTrain_qr_B0296)

●さわやかウォーキング

日時：2024年2月17日(土)

場所：新大阪駅またはJR甲子園口駅

主催：東海旅客鉄道(株)

[https://jr-central.co.jp/news/release/\\_pdf/000043062.pdf](https://jr-central.co.jp/news/release/_pdf/000043062.pdf)

●グリーン経営認証取得講習会

日時：2024年2月20日(火) 9:30～16:30

場所：オンライン開催

主催：国土交通省中国運輸局

<https://www.tb.mlit.go.jp/chugoku/content/000308147.pdf>

●『人と多様なモビリティが共生するゆっくりを軸としたまちづくり』～オーストリア調査報告を中心に～

日時：2024年2月21日(水) 15:00～18:00

場所：(公社)日本交通計画協会 3階BC会議室

主催：(公社)日本交通計画協会

<https://www.jtpa.or.jp/contents2/annnai.html>

●交通環境セミナー ―2050年カーボンニュートラルを見据えた物流効率化に向けて―

日時：2024年2月29日(木) 13:30～16:30

場所：ハイブリッド開催(大阪科学技術センター8階中ホール+オンライン配信)

主催：国土交通省近畿運輸局

<https://www.tb.mlit.go.jp/kinki/content/000315058.pdf>

●第16回 ECOMO 交通バリアフリー研究・活動助成報告会

日時：2024年3月1日(金) 13:00～15:40

3月8日(金) 13:00～15:45

場所:オンライン開催

主催:エコモ財団

[https://www.ecomo.or.jp/barrierfree/bfyosei/2023/bfyosei\\_2023\\_report16\\_top.html](https://www.ecomo.or.jp/barrierfree/bfyosei/2023/bfyosei_2023_report16_top.html)



---

## 5. その他

- 「グリーン経営認証」に関する情報は、専用ホームページへ

<http://www.green-m.jp>

- エコ通勤優良事業所を認証登録しています！

[https://www.ecomo.or.jp/environment/ecommuters/ecommuters\\_top.html](https://www.ecomo.or.jp/environment/ecommuters/ecommuters_top.html)

- 交通環境学習(モビリティ・マネジメント教育)メールマガジンを発行しています！

配信申込はこちらから

<http://mm-education.jp/magazine.html>

- グリーンスローモビリティに関する情報を掲載しています！

[https://www.ecomo.or.jp/environment/gsm/gsm\\_top.html](https://www.ecomo.or.jp/environment/gsm/gsm_top.html)

- 「運輸・交通と環境」を発行しています！

(日本語版)

<https://www.ecomo.or.jp/environment/unyukotsutokankyuu/index.html>

(英語版)

<https://www.ecomo.or.jp/english/tej.html>

- 記事募集中！

本メールマガジンへの掲載記事を募集中です。

EST、または「交通と環境」に関連する取組や話題、催し物の案内等を事務局までお寄せください。 → E-mail: [magazine@ecommo.or.jp](mailto:magazine@ecommo.or.jp)(担当: 中道)

---

発行: 環境的に持続可能な交通(EST)普及推進委員会事務局

(公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団)

配信申込、バックナンバー閲覧はこちらから

<https://www.estfukyu.jp/mailmagazine.html>

配信停止はこちらから

[https://p.bmb.jp/bm/p/f/tf.php?id=mail\\_ecomo](https://p.bmb.jp/bm/p/f/tf.php?id=mail_ecomo)

EST ポータルサイト: <https://www.estfukyu.jp/>